

JASMIN 将来構想会議の実施報告

妹尾 大（せのお だい）
東京工業大学

1. 会議の概要

2019年9月6日（金）と7日（土）の2日間にわたり千葉県鴨川市にて、会員25名とファシリテーター1名、遠隔参加5名の合計31名が参加した経営情報学会の将来構想会議（通称：JASMIN 超会議）が実施された。会議の開催目的は、経営情報学の「あるべき姿、なりたい姿」を描いて、今後の学会活動についての対話を行うことである。以下で、会議の様子と成果について報告する。

2. 初日の様子

9月6日金曜日の午後、青空の下、千葉県鴨川市安房小湊の旅館「満ちてくる心の宿 吉夢」に参加者が参集した。期待どおりの、ベテランから若手、学生会員までもを含む多様性の高い集団となった。のちに台風15号が大きな被害をもたらす予兆も見当たらず、外房の内浦湾は穏やかな表情だった。

会議の進行は野村恭彦氏が務めた。野村氏はこれまで数多くの対話の場を支援してきた熟練のファシリテーターであり、学会活動への造詣も深く、参加者の意見を的確に引き出していった。

最初の導入部分では、参加者全員がひとつの大きな輪となり、自己紹介と今回の会議に期待することを語り合った。その後、2人一組のペアとなり、経営情報学会の良いところは何か、をテーマに意見を傾聴しあった。ここでは、「様々な分野の研究者および実践者が参加しており多様であること」、「特定の理論や道具立てにこだわらず寛容であること」、「研究者を育成していく文化があるところ」などが良いところとして挙げられた。

続くセッションでは、リラックスした気分で知識を持ち寄り結集していくワールドカフェを実施した。テーマは「経営者が将来ほっとけない、異分野

の交差点とは？」である。経営情報学のホットスポットを探し出すために、いろいろな分野を掛け合わせ、その「交差点」から研究領域候補を創出しようとした。小グループに分かれ、ラウンドごとにメンバーをシャッフルして新たな発想を引き出し、全体で19個の研究領域を創出した。一例を挙げると、「一次産業のICT活用」分野と「AIによる自動化」分野との掛け合わせで、「スマート農業」という研究領域が創出された、という具合である。これら19個の研究領域に対して、重要度（重要だと思うか）と貢献度（自分が貢献したいと思うか）を参加者が主観的に評価し、今回の会議で引き続き議論を深める6個の研究領域に絞り込んだ。

夕食・懇親会では大広間にて房総の海の幸を堪能しつつ、会議室とはまた違った環境で経営情報学の今後について大いに語り合った。その後も、温泉の露天風呂で、または部屋で、学問の来し方行く末や学会の魅力向上などについての議論が同時多発的に続行される夜となった。

3. 二日目の様子

朝食バイキングには地元食材が並び、なかには米



図1 参加者の集合写真



図2 発展を祈って乾杯

螺（さざえ）カレーのような珍しい郷土料理もあった。朝食時には窓外に虹がかかり、学会の明るい未来を暗示しているようだった。

二日目のセッションは、6つの交差点をコンセプト化するための話し合いから始まった。それぞれの交差点を深掘していくうちに、3つの交差点は研究領域に関連するものであり、残る3つの交差点は学会活動の方向性に関連するものであるとして整理した。その後、名前を再検討することとし、インパクト重視の短いニックネームと、名は体を表すような長めの正式名称の両方を検討した

会議の締めくくりに、再度全員がひとつの大きな輪となり感想を述べ合った。「これまでのJASMINイベントで最も楽しかった」、「学会のポテンシャル（組織能力）が高いことに気づいた」、「大学卒業後も関わりたかったので良い機会だった」、「他学会と差別化できそう」などの声が挙がった。

4. 会議の成果

創出した6つの交差点（ホットスポット）について

表1 6つの交差点

	ニックネーム (インパクト重視)	正式名称 (体を表す名)
交差点N1 (旧1と2)	デジタル時代に残る仕事	行動要因情報による組織最適化
交差点N2 (旧5と6)	まちDX	地域資源の流動化
交差点N5 (旧17)	個人中心インタラクションのメタデザイン	Well-being向上の為の社会制度アップデート
交差点N3 (旧8)	萌芽創出	経営情報学的萌芽研究の明確化と創出
交差点N4 (旧14)	〇〇縁結び	学生会員と会員企業のマッチング（SCM）
交差点N6 (旧19)	JASMIN海ガムプロジェクト (横っCIOの育成と編集)	IS専門職の創生とコラボレーション

て再検討した名前を表1に示す。

これらについて、どういった具体的施策が必要か、将来の研究をどうやって支援してブーストさせていくか、といった議論は持ち越しとなり、小グループで後日資料化した。

今回の将来構想会議をきっかけにして、科研費申請グループの結成の動き、研究発表大会のポスターセッション運営の改良というような具体的な活動が続出しており、目に見える活動変容の成果もあがっている。今後も各種の取り組みによって、対話の輪を広げていきたい。

略歴

妹尾 大（せのお だい）

1993年一橋大学社会学部卒業、1995年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了、1998年一橋大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学、1998年北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科助手、2002年東京工業大学大学院社会理工学研究科助教授、2017年東京工業大学工学院教授現在に至る。